

平成19年度

病害虫発生予察特殊報(第2号)

平成19年9月18日
神奈川県農業技術センター所長

病害虫名：アジサイ葉化病

作物名：アジサイ

1 発生経過

- 平成19年7月に県西地域の造園業者より、公園などに植栽したアジサイの花器が葉化する株が発生しているとの連絡がフラワーセンター大船植物園にあり、被害枝が農業技術センターに届けられた。
- 病徴からアジサイ葉化病が疑われたため、サンプルを(独)農業・食品産業技術研究機構中央農業総合研究センター昆虫等媒介病害研究チームに同定依頼したところ、PCR検定によりアジサイ葉化病と同定された。
- 農業環境研究部及び病害虫防除部職員の現地調査では、公園、保養所などに植栽されているアジサイの半数近くの株で花器の葉化症状が確認された。また病徴を呈した株の大半では一部の葉に黄化や赤色化が見られ、さらに衰弱症状を呈した株も確認した。聞き取り調査によると、発生は本年からであり、発病した株の春先の展葉は、赤茶に変色して縮葉していたという。

2 病徴および病原の性質と伝搬方法

- 本県で確認された主な症状は、花器全体またはその一部が淡緑色～濃緑色を呈する葉化症状。葉化した花器の中央部から新たな芽条が形成される、つきぬき症状。葉の黄化、赤色化。葉の小葉化、および株の衰弱症状である。
- 病原はファイトプラズマであり、発病したがく片や花茎の篩管に細胞壁のない直径150～600nmの多数の球形や垂鈴形の多形性粒子が見られる。
- ヨコバイ類が媒介すると考えられているが、国内における媒介虫は現在までに明らかにされていない。また、ニチニチソウに接木伝搬することが確認されている。
- ファイトプラズマの種や病原型によって特異的に決まっている媒介虫（主としてヨコバイ類）によって永続的（増殖型）に伝搬されるが、経卵伝染はしない。人為的な株分け、挿し木、接木などの栄養繁殖を行った場合にも病原は失われないが、種子伝染はしない。

3 防除対策

- 発病株の早期発見と早期除去に努める。
- 発病が疑わしい株からの増殖は行わない。



発病した花器(下)と健全な花器(上)



発病した花器(左)と健全な花器(右)



発病した花器



発病した花器



衰弱した株



葉の黄化・赤化症状



つきぬき症状

神奈川県農業技術センター
 病害虫防除部
 〒259-1204 平塚市上吉沢1617
 TEL 0463-58-0333
 FAX 0463-59-7411
 テレホンサービス0463-58-6612
<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp>